

# 令和5年度 芸術科 書道Ⅲ シラバス

教科名	科目名	対象学年	対象学級	単位数	履修形態	教科書(発行所)	副教材・発展学習教材(発行所)
書道	書道Ⅲ	3年	1・2・3・4	2	選択		
検印	校長 ( )		教頭 ( )( )		担当 : 上間 志乃		

学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現と鑑賞を有機的に関連させて展開される書道の創造的な諸活動をととして、書を愛好する心情を育てるとともに感性をさらに高めていく。</li> <li>・書の文化や伝統について理論的な側面を含めて理解を深め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばしていく。</li> </ul>
評価基準	<p>1、関心・意欲・態度</p> <p>書を愛好し、書の文化や伝統を尊重しようとしているか。個性を生かして意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとしているか。</p> <p>2、芸術的な感受性やその工夫</p> <p>感受性を磨き、書の良さや美しさを感じ取り、個性豊かで創造的な表現を工夫しているか。</p> <p>3、創造的な表現の技能</p> <p>個性豊かに創造的な表現をするために、素材を生かした効果的な表現の技能を身につけているか。</p> <p>4、鑑賞の能力</p> <p>書の美の多様性と作品の特徴を把握しているか。日本及び中国等の書の伝統と諸文化との関連などを幅広く理解し、そのよさや美しさを深く味わっているか</p>
評価方法	<p>授業への取り組み道具の正しい使い方管理 片づけができているか。各時間提出する提出物をきちんとまとめて提出しているか。単元ごとの作品制作、創作作品の取り組み及び完成度 等を総合的に判断し評価する</p>
<p>○自らの感性に基づき対象となる作品や古典に素直な気持ちで向かう。</p> <p>○得られた感性は何に由来するものか、用具・用材・構成、また作者や時代背景といったさまざまな要素について考え分析する姿勢が大切です。</p> <p>○技法の習得においては自分の解決すべき課題や問題点を明確にしておくことが大切です。</p> <p>○創作においては感興に応じた表現を目指し、詩文や用具・表現形式などについてより効果的なものを積極的に選択したい</p>	

	学習時期	学習内容	学習のねらい	時数
学 習 計 画	4月	書の美を求めて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書道Ⅲの学習への導入を図り、より発展的に学習姿勢を整える</li> <li>・書写検定の学習を行い、資格取得に向けて挑戦を図る</li> </ul>	4
	5月	漢字の書の学習 篆書・隸書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の書の流れを再確認し、それぞれの書体の持つ特徴や美しさについての理解を深める</li> </ul>	12
	6月			
	7月	楷書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の好きな書体 作品を選び、図画・作文・書道コンクールに向けた半切臨書作品制作を行う</li> </ul>	10
	9月	行書・草書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の好きな書体を選び、サイズ・紙・墨・筆等 用具用材を考慮した作品制作を行う</li> </ul>	10
	10月	仮名の書の学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たくさんの古典作品に触れ、仮名独特の温雅な書風を味わい、意図に応じた作品制作を試みる</li> </ul>	8
	11月			
	12月			
	1月	篆刻・刻字の学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・篆刻・刻字への関心を深め、多様な表現を試みる</li> </ul>	18
	2月			
3月				